

# 復興に向けた メッセージ

下旬大熊C班

平悠矢 小倉大慈 永渕心介 山本裕 小野健太

# 議論のテーマ

私たちの解釈

研修を通じて得た知見を私たちが  
誰かに伝えるとき、**大切にしたい**  
**メッセージ**は何だろう？



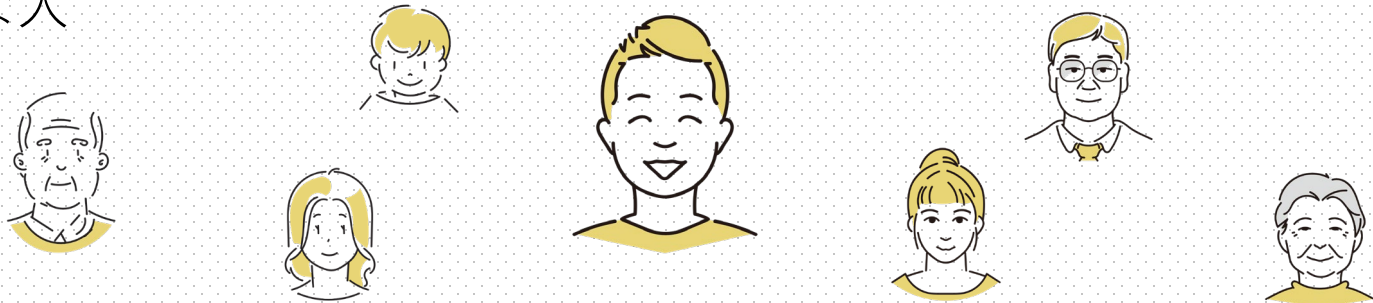
# 誰に伝える？

例えば・・・

- 震災・原発に関心を持っている人/関心がない人
- 放射線について知っている人/よく知らない人
- 福島やその近くに住んでいる・関わりがある人/そうでない人
- 防災意識が高い人/低い人

# 誰に伝える？

身近な人



家族・親戚、友達、先輩/後輩、教員/学生、上司/部下…

六次の隔たり

身の周りの知り合いを通じて

6人で世界中の人と繋がれる

身の周りの人のつながりは大切

# どうやって伝える？

- 直接会話をする



- 文章に書く、写真を撮る



- SNSで発信・交流する



- 作品（音楽、本、映画、アニメ、番組etc）を勧める



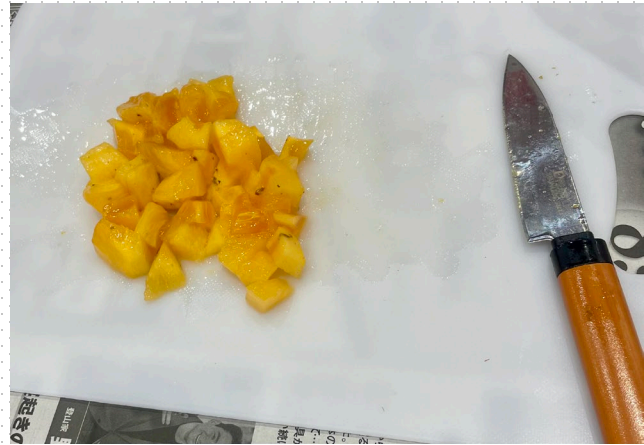
世の中にはたくさんの手段がある

# 何を伝える？ - 客観的な事実

- 浜通りの空間線量率  
帰還困難区域



- 採取・測定・分析方法



原子力災害の震災遺構としての側面もあった  
直感的な考えと実際の数値のギャップを感じた

# 何を伝える？ - 客観的な事実

- 原発の廃炉作業



- 除染/除染土の処分



- 居住・食品摂取などの基準値

科学的な安全性を満たした上でより厳しい数値になっている  
科学に基づく基準と社会的な要請に基づく基準がある

復興作業には様々な分野の多くの人関わっている

# 何を伝える？-福島/浜通りの現状

- 作業が進む一方で残された土地・建物も



被災地としての問題と田舎としての問題  
→全国に関わりのある問題



# 何を伝える？-福島/浜通りの現状

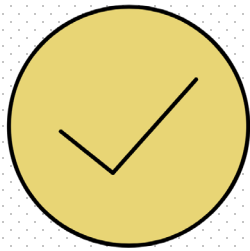
- 新たな暮らし・産業



知ってほしい、食べてほしい、来てほしいという思い

# 何を伝える？ - 安心とは

安全



数値に基づく  
客観的なもの



安心



個人の経験・価値観に基づき  
主観的なもの

安心を感じてもらうために大切なことは  
様々な立場からの意見があること・思いを通すこと

# 何を伝える？ - 復興とは

- そもそも何のため？誰のため？
  - 福島に住んでいた人のため
  - 帰りたい/住みたい人のため
  - 困っている人を助けたい/壊れたものをなおしたいから
  - 技術を使いこなす責任として
  - 新たな技術/まちづくりとして
  - 将来に活かす・繰り返さないため

さまざまな角度から復興に携わることができる

いつまで復興と呼ぶのだろうか？

# メッセージ

研修で感じたことをそのままにするのはもったいない

自分にできることを始めよう！

- 知る→研修・授業で学ぶ、ニュースを見る、作品を見る
- 触れる→食べる、使う、旅行する、見学する
  
- 伝える→周りの人に感じたことを広めよう

